

第三十二回 卒業証書授与式

式 辞

厳しい冬の寒さも日増しに和らぎ、大地が暖かくなり、登美の丘の桜のつぼみも膨らむ今日の佳き日に、奈良県立登美ヶ丘高等学校第三十二回卒業証書授与式を挙行いたしましたところ、保護者の皆様、御家族の皆様、御列席をいただき、高壇からではございますが、心から御礼申し上げます。

また、卒業生を今日まで見守ってこられた皆様におかれましては、お喜びはいかばかりかと、ご拝察いたしますとともに、衷心からお祝い申し上げます。本日は誠におめでとうございます。

さて、ただ今卒業証書を授与いたしました二百三十五名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。心からお祝いをいたします。

皆さんは高校卒業という大きな節目
にあって、今、高校三年間のいろいろな出
来事が、まぶたに浮かんでいることと思っ
ます。楽しいこと、時には厳しいこと、辛い
ことも、きつとあったことでしょう。様々な
学習活動、部活動、学校行事、友との語
らい、これらの全てを通じて、校訓にもあ
る「誠実 勤勉 剛健」の心が培われ
てきました。そこで、卒業の節目に当た
り、昨年の休校期間に皆さんへのメッセー
ジとして送った言葉を、改めて私から饒の
言葉とします。

それは、「なんくるないさあ」という沖繩
の言葉です。「なんくるないさあ」「は、「何
もしなくてもなんとかなるよ。」という楽
観的な意味で捉えている人も多いと思っ
ます。しかし、元々は「真^{まこと}そーけーなんく
るないさあ」という言葉で、その意味は
「人として正しい行いをしていれば、自然
とあるべき様になるものだ」ということで

あり、「挫けずに正しい道を歩むべく努力をすれば、いつかきつと報われて良い日がやって来る」ということだそうです。「やるだけやったのだから、きつとなんとかなる。」と、そのような前向きな気持ちで、これからも、それぞれの新しい道を歩んでください。そして、この登美ヶ丘高校で過ごした日々の経験を活かし、現代は何が起ころるか予測不可能な時代と言われていますが、そのような時代でも活躍されることを願っています。私たちは皆さんの活躍をこの登美ヶ丘の地で永遠のサポーターとして応援します。でも、何かの転機で悩んだ時、また社会の荒波にもまれ、少し疲れたときは、遠慮なく登美ヶ丘の地に帰ってきてください。この場所でのたくさんの思い出が、変わらぬ顔をして皆さんを迎えてくれます。登美ヶ丘高校はいつまでも皆さんと共にあります。

最後になりましたが、御多忙の中、御

参列いただきました保護者の皆様には、
今日まで三年間、本校の教育活動に
対しまして、多大なる御支援、御協力を
いただき、ありがとうございます。改めて
深く感謝申し上げますとともに、巣立
ちゆく皆さんの、輝かしい未来を祈念し
て、式辞とさせていただきます。

令和三年三月一日

奈良県立登美ヶ丘高等学校

校長 植村 哲行